

取組事例

1 市町村の事例

(1) 地域学習に関すること

事業名 『郷土長岡を創った人びと』を読む会

目的 長岡市制施行100周年記念事業の一環で昨年刊行した『郷土長岡を創った人びと』の頒布促進と合併10市町村の偉人の理解を深める場を市民に提供する。

実施主体 長岡市立中央図書館文書資料室

参加対象 一般市民

参加者数 延べ 255名

回数 5回

日数 5日

時間 12時間30分

場所 長岡市立中央図書館2F講堂

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月22日(火) 13:30~15:45	小林虎三郎、三島億二郎	『郷土長岡を創った人びと』編集委員会委員 古田島 吉輝 様
	内容・方法	各人物の業績及びエピソードなど	
2	7月30日(金) 13:30~15:45	山口権三郎、坂牧善辰	『郷土長岡を創った人びと』編集委員会委員 高橋 実 様 滝沢 繁 様
	内容・方法	各人物の業績及びエピソードなど	
3	8月24日(火) 13:30~15:45	桑原久右衛門、本間健四郎	『郷土長岡を創った人びと』編集委員会委員 小林 芳郎 様 鳴海 忠夫 様
	内容・方法	各人物の業績及びエピソードなど	

回	期日・時間	テーマ	講師等
4	9月17日（金） 13:30～15:45	岸宇吉・田村文四郎、植村角左衛門・川上八郎右衛門	『郷土長岡を創った人びと』編集委員会委員 松本 和明 様 嶋田 進 様
	内容・方法	各人物の業績及びエピソードなど	
5	10月5日（火） 13:00～16:30	栃尾地域の現地見学	『郷土長岡を創った人びと』編集委員会委員
	内容・方法	秋葉公園、貴渡神社、瑞麟寺など	

成 果

会場を昨年の講座室から講堂に変更したことにより、参加人数を大幅に増やし、より多くの人に人物をとおして長岡市についての理解を深めてもらうことができた。

課 題

合併10市町村から11町村に変わったので、川口地域の偉人についても取り上げることが可能かどうか。

問合せ先

長岡市立中央図書館文書資料室（担当：石井順子）TEL：0258-36-7832

事業名

ふるさと考講座

目的

荒川地区に伝わる食文化や風習、貴重な史跡・文化財等について学び知ることで、ふるさとの良さを再認識してもらうとともに、ふるさとの財産を次の世代に引き継ぐ。

実施主体

荒川事務所教育課

参加対象

地区市民

参加者数

11名

回数

1回

日数

1日

時間

4時間

場所

荒川保健センター（栄養指導室）

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月19日 9:00～13:00	伝えたい！残したい！「ふるさとの味」	地域市民 3名（農家）
	内容・方法	笹団子とちまきの作り方（実技指導） ①粉のこね方 ②スゲでの結び方	

成果

自分で作った団子を実際に食することで、売っている物との味の違いを実感してもらうことができ、その家の味を伝え残していくことの大切さを知ることができた。
講師に、地域の方を活用することで交流の輪が広がり、そして普段人に物事を教えることがない方が講師となることで、人に教える喜びを持つことができた。

課題

今回は食文化をテーマにした内容であるが、地域の課題等を踏まえ、より広い範囲でテーマを検討したい。
今回は、笹団子づくりだけだったが、地域の文化を伝えるためには、一部だけでなく全体の行程を伝える内容にするため、日程等の検討を行う必要がある。

問合せ先

荒川事務所教育課 TEL：0254-62-3050

事業名

おとなふるさと探検隊

目的

市内各地区の異なる文化や風習を知り、村上市の新たな良さを発見し、そこに住む人たちが取り組んでいる地域振興（活性）を学び、自分たちの地域に何が必要かを検証していく。

実施主体

村上市神林事務所教育課

参加対象

地区市民

参加者数

15名

回数

2回

日数

2日

時間

16時間

場所

山北地区

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	10月18日	江戸人になって出羽街道を歩こう！ ～歴史の道と日本国の宿小俣宿～	案内人 大滝 與志男 様
	内容・方法	○ 山北地区出羽街道案内人と大沢石畳の街道を散策。 ○ 小俣集落で家並みの歴史を学び、地域住民から小俣の村おこしの経過や取組課題を学ぶ。	
回	期日・時間	テーマ	講師等
2	10月31日	紅葉のブナ林を歩いてみよう！	なし
	内容・方法	○ 山北地区の山熊田で行われているブナ林散策イベントに参加し、自然を満喫しながら地区の方々がどのようにイベントへ関わり、どのように地域おこしを行ったかを学ぶ。	

成果

新規事業としての取り組みであったが、参加者の反応から当初目的としていた「新しい村上の良さ」を発見できたことは非常によかった。

課題

次年度も継続して実施するが、これまで知ることができなかった新しい視点としては発見できたと思うが、地域課題を知り自らの地域への展開として参加者に気付かせるかを考えていきたい。

問合せ先

村上市神林事務所教育課 TEL：0254-60-1500

事業名 市民大学講座

目的 佐渡学（佐渡固有の自然・文化・歴史を学ぶ）を通じて、佐渡に誇りを持ち、新しい佐渡を考えていく。

実施主体 佐渡市教育委員会社会教育課

参加対象 一般

参加者数 延べ 271名

回数 5回

日数 5日

時間 10時間

場所 佐渡島開発総合センター

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	5月27日(木) 19:00～21:00	江戸時代の鬼太鼓	講師:NPO法人佐渡芸能伝承機構 理事長 松田 祐樹 様
	内容・方法	鬼太鼓の初見(安永元年1772年)から現在に至るまでの変遷及び映像を交えながら佐渡島内の鬼太鼓の様々な系統等を紹介。	
2	7月22日(木) 19:00～21:00	金山の山師から廻船商人へ ～本陣の商家の文化性～	講師：佐渡郷土文化 主宰 山本 修巳 様
	内容・方法	講師である山本修巳様一家の家譜を用い、山本家と山師(鉦脈の発見、鑑定や鉦石の採掘事業を行う人)と廻船商人(港から港へ旅客や貨物を運んで回る船に乗る商人)との関わりを説明し、佐渡における名家の生き方を紹介。	
3	9月9日(木) 19:00～21:00	佐渡の暮らしと江戸の暮らし ～佐渡奉行 川路聖謨の日記から～	講師：専修大学史編集主幹 元専修大学文学部 教授 青木 美智男 様
	内容・方法	川路聖謨(幕末に活躍した幕臣)の生い立ち又奉行として佐渡に赴任していたころに書いた日記をひもとき佐渡での暮らしぶり、当時の佐渡の状況を紹介。	
4	11月13日(土) 13:30～15:30	佐渡を識る ～歴史・文化の観点から～	講師：佐渡市世界遺産推進課 課長 北村 亮 様
	内容・方法	佐渡の文化財の紹介又佐渡金銀山の世界遺産登録に向けての取り組みとして、世界遺産暫定一覧表への応募から現在に至るまでの活動を映像を交えながら紹介。	

	期日・時間	テーマ	講師等
	12月4日(土) 13:30~15:30	佐渡市の地産地消の現状と課題	講師：佐渡市農林水産課 生物 多様性推進室 地産地消推進係 係長 市橋 秀紀 様
5	内 容 ・ 方 法	地産地消で取り組んでいるアンテナショップの設置、地元食材を使った学校給食での統一献立、イベント(佐渡産食材をPRする「地産地消まつり」)等を紹介し、地産地消の重要性を説明。	

成 果	受講生のアンケート結果を参考に、ニーズに応えるために今年度はテーマを佐渡学に絞り開催したところ受講生の出席数が大幅に増え、年代も幅広くなり、非常に有意義な講座になった。
課 題	来年度もテーマを佐渡学に絞り開催するため、今年度より一層充実した講座にするため講師の選定が課題となる。

問合せ先

佐渡市教育委員会社会教育課（担当：駒形崇史）TEL：0259-27-4185

事業名 妙高「お宝」はっけん・伝

目的 妙高市内の「お宝」であるヒトやモノやコトを見聞し、妙高市のよさを再認識することを通して、地域づくりへの理解者や協力者の育成を図る。

実施主体 妙高市民大学講座実行委員会

参加対象 妙高市民

参加者数 36名

回数 8回

日数 8日

時間 2～3時間程度

場所 妙高市内

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	4月～11月	妙高市のよさを再認識することを通して地域づくりへの理解者や協力者の育成を図る。	社会教育委員 外部講師
	内容・方法	【内容】 第1回：開講式、影虎法要事業見学 第2回：夢見平植物観察 第3回：米粉料理づくり体験 第4回：関山神社火祭り見学 第5回：国立妙高青少年自然の家見学 第6回：市内企業訪問 第7回：地域づくり活動見学 第8回：森蘭齋を学ぶ、閉講式 【方法】 ・見学については、市教育委員会のバスなどを使い現地まで行って学習をした。 ・第3回の体験については、JAの方から講師として様々なメニューをご指導いただいた。 ・第6回の市内企業見学については、受講生が自分たちで企画運営をする自主講座となった。	

成果 どの回も評判がよく、参加者が大変喜んでいた。
身近なものを題材として取り上げた講座が多かったが、意外に知らないことが多かったようで、妙高の魅力を再発見するいい機会になった。
講座を受講したことで、地域づくり活動への参加意欲が高まった。

課題 内容によっては、時間がやや不足気味のものがあつた。

問合せ先

新潟県妙高市教育委員会 生涯学習課（担当：今井） TEL：0255-74-0034

事業名

阿賀野市「ふるさとウォーク」

趣旨

- ① 16 km を歩き通し達成感や成就感を味わう。
- ② 集団活動の中で仲間と励ましあう、協調性を養う、問題解決力を身に付ける。
- ③ 阿賀野市を巡りふるさとの良さを再発見する。
- ④ 他校生や協力してくれるボランティアとの親睦を図る。

実施主体

阿賀野市教育委員会 生涯学習課

参加対象

阿賀野市内の全中学生

参加人数

22名

回数

1回

日数

2日

時間

約7時間

場所

阿賀野市内全域

内容

回	期日・時間	テーマ	ボランティア等
1	7月29日(木) 12:45～ 7月30(金) 12:00	○阿賀野市内16kmを歩ながら、がんばれる 自分・ふるさとの素晴らしさを再発見する。	・小・中学校職員 ・市民活動団体メン バーなど15名
	内容・ 方法	○4～5名のグループを編成し、市内博物館、企業、史跡等を見聞しながら約16kmを歩く。ゴール後五頭連峰少年自然の家で宿泊、翌日野外炊さんを行う。 ○コースは安田公民館→吉田東伍記念博物館→(株)めんつうテクノ(製麺工場)→三度栗(越後七不思議)→五頭山麓うらの森→五頭連峰少年自然の家	

成果

参加した生徒全員が、長い距離や足の痛みにも耐えながら16kmを完歩することで成就感を味わうことができた。
市内の博物館・企業等を見学することにより、ふるさとの歴史・産業にふれ、その素晴らしさを再発見できた。
小・中学校の職員は生徒と一緒に歩き、学校生活とは違った話しができ、コミュニケーションを図る良い機会になったという声が多かった。
小・中学校の職員をはじめとしたボランティアに参加してもらったことが、学社連携を進めるきっかけとなっている。

課題

参加者の確保に苦慮している。チラシやポスターによるPRだけではなく各学校と相談して生徒が参加しやすい日程を作成するなどの工夫が必要。
中学生が参加しやすくするため、開催時期を夏休み中としたがウォーク中の暑さ対策(休憩・給水)が課題。
ボランティアの協力なくして事業は行えないため、もっと協力者を増やしたい。

問合せ先

阿賀野市教育委員会生涯学習課社会教育係(佐藤) TEL:0250-62-5322